

埼葛北・北埼玉地域専門職連携推進会議 研修会 「専門職カフェ」報告書

I. 研修会の概要

- ・日時；平成30年11月21日（水）
18:30~20:00
- ・会場；久喜中央公民館 会議室
- ・参加者；21名（うち運営スタッフ6名）
- ・参加者の職種；精神保健福祉士、支援相談員、
介護支援専門員、管理者、介護課長、相談員、
副施設長、介護課長
- ・テーマ「地域の社会資源を発見・開発しよう」

II. 専門職カフェの流れ

会場に到着した参加者による、自然発生的な名刺交換に続いてアイスブレイクを実施。その後は5人程度のグループに分かれ、グループワークを行った。

グループワークは、持ち寄りのお菓子とコーヒーを愉しみながら、和やかにくつろいだ雰囲気の中で行われ、柔軟な発想、自分とは異なる専門職からの視点で、お互いに刺激を受けながら進行した。グループワークのまとめとして、各グループから「是非とも欲しい社会資源」を発表した。内容詳細については、別紙「グループワーク結果」に記載した。

最後に、埼玉県立大学の新井利民先生より、久喜市の社会資源の紹介及び現状と課題についてお話ししていただいた。

III. グループワークの結果

別紙1「グループワーク結果」参照

IV. アンケート結果

別紙2「アンケート結果」参照。

V. まとめ

「カフェ」と称した研修会は、昨年度に続き2度目の開催となった。昨年度は相談員をターゲットに実施したが、今回は「社会資源の開発・発見」をテーマとして、職種を限定することなく実施した。結果、参加職種は相談援助職・介護支援専門員が中心だったが、その他の職種の参加もあった。それぞれの参加者にとって貴重な機会となり、話しやすい雰囲気の中、活発な意見交換もなされた。

アンケート結果は、「大変良かった」「良かった」の

回答のみであり、概ね参加者の満足が得られたと思われる。また、理由や今後の企画への要望については、「アンケート結果」からも分かるように、様々な意見が寄せられた。

今後も「事例検討会」と併せ、今回実施したような、地域の機関・事業所に所属する様々な専門職を繋ぐ場の提供と、その継続の必要性を感じた。

VI. 運営スタッフ

吉田和史（社会福祉法人清幸会）
野呂牧人（介護老人保健施設ケア・ビレッジ シャローム）
冨樫治子（介護老人保健施設ぽっかぽか）
新井利民（埼玉県立大学）
久保田章仁（埼玉県立大学）
大熊邦夫（介護老人保健施設鶴寿の里ナーシングホーム）



埼葛北・北埼玉専門職連携会議 専門職カフェ（2018.11.21 実施）

「ほしい社会資源」についてのグループワーク 記録

【テーブル1】

<第1位>

- 常設相談員カフェ・居酒屋
- 三ツ星シェフが作る配食サービス
- 叫び部屋（防音ルーム）：部屋の中にサンドバックやカラオケがある（ストレス発散）
- コンビニで行政手続きができるところ

<第2位>

- 市内の病院・施設の相談員のグループ LINE
- 入退院支援の効率化

<第3位>

- 一緒にご飯を食べてくれる人

<その他>

- 受診拒否の人の送迎
- 後見人を早く選任できる所
- 要介護でも働けるデイケア「給料もらえる」
- 独居高齢者の支援ハウス
- 独居見守りロボット
- 集合住宅で玄関の開閉が定期的でないことがわかるシステム
- 新聞配達の方が薬を届ける

【テーブル2】

<第1位>

- 本当に無料の無料低額施設（と医療）
- 学校制服ユニホーム完全レンタル（無料）
- ベーシックインカム
- ディズニーランドを無料で楽しめる無料券

<第2位>

- 最近「みまもりあり」というアプリのプロジェクトしています
- PSW が一家族に1人。たくさんの人で支えていきたい。見守り強化

<第3位>

- 日曜大工に毛が生えたくらいの修理屋さん
- 出張フットケア（装具も）
- 補聴器メンテ・チェック

<その他>

- 地域ならではのマップ。飲食店・美容院・雑貨店など

- 県内の介護保険施設の受け入れ状況などがわかるもの
- 小規模な医療デイケア。アットホームで笑顔がたくさん。
- 老々介護的施設
- 子どもの駆け込み寺
- 巡回温泉
- だいぶ大人の人の「街コン」
- ひとりである人集まれ食堂（留守番の子どもとか、託児所がわりに。また 1 人暮らしの大人も入れる）。
- 各種食事形態に対応するカフェ・レストラン(コンビニ位の近さで行けるところ)

【テーブル3】

<第1位>

- ちょっとした移送サービス
- 久喜市全域行けるデマンドバス
- 加須市久喜市デマンドを広げて欲しい
⇒切実に外出の手段がない

<第2位>

- コンビニにワンストップ相談会カフェ
- 東屋的な休憩所。公園以外疲れたら休みたい
- 車椅子でも気軽に自由に入れるアミューズメントパーク。
風呂、ゲーム、パチンコなど 出かけるのに気合が必要だから
- スーパーのイトインスペースでのサロン（高齢者・こども）
⇒歩いて行ける距離で、気軽に、一步踏み出せるところ サロン

<第3位>

- 空き家活用をするすすめる不動産屋さん
- 民間の宿泊サービス。高齢者・障害者・子供など
- 出張の将棋差し・囲碁差しボランティア
- ちょっと様子を見に行ってくれる人
- 縁側のあるおばあちゃんち的なもの・交流の場
- 小中学生の高齢者宅訪問活動・宅食ボランティアなど
- 体調を定期的にみにいける人
- ちょっとした手伝い。ゴミ出し・電球の交換

<その他>

- いろんな情報を伝える街宣車
- 安全安心に遊べる公園・見守る人がいるところ
- 町の頑固じいさん。ドラえものの「雷さん」的な悪いことをすると叱ってくれる人
- 歩行者のみ用の道路をいたるところに。自由に歩きたい。
- 認知症の人が安らげる場所、人

- よく話を聞いてくれるお医者さん
- そんなにお金がかからず、行きたいところに車を出してくれるサービス
- 病院の受診を促してくれる人
- 半日のデイケアリハビリ入浴ができる
- 高次脳機能障害の方のデイサービス

【テーブル4】

<第1位>

- 犬猫ペットと来れるデイサービスペットの世話も
- 仕事付き高齢者住宅
- 若い人子供が遊べる介護施設
- 介護施設で送り最後のところまで

<第2位>

- 有料リハビリテーション介護医療保険関係なく平等に利用できる
- 全自動エスカレーター遊歩道。交通事故が多いので、フィラデルフィアのように車道と歩道を分ける。
- 送迎車が全自動送迎中に AI で
- 普通のタクシー怖い思いをしている方が多い
- 介護施設で悩み相談
- 利用者による
- 定期的いろいろな人々の交流が持てる茶話会
- 高知市の障害を対象にした ST のリハビリ訪問やふくしょく関係

<第3位>

- 車の運転チェックをしてくれる場所
- 部屋の掃除片付けをしてくれる人が定期的に来てくれるチケット制など
- あっちこっちも元気高レイジャー、虚弱を助けてくれる

<その他>

- 倒れそうになっても助けてくれる AI ロボット
- 水分補給協力者
- P トイレの排泄物を片付ける人
- 風邪症状等で利用させてくれるショートステイ

(別紙 2)

平成 30 年度 第 2 回事例検討会「専門職カフェ」 アンケート結果

参加者数； 21 名 (運営スタッフ含む)

回答数； 13

1. 職域について (重複あり)

	居宅介護 支援事業所	病院	老人保健 施設	デイ ケア	グループ ホーム	特別養護 老人ホーム	デイ サービス	計
精神保健福祉士		3		2				5
介護支援専門員	3							3
管理者					1		1	2
社会福祉士						1		1
理学療法士			1					1
支援相談員			1					1
計	3	3	2	2	1	1	1	13

2. 今回の事例検討会について

大変よかった	よかった	どちらともいえない	つまらなかった	回答なし
3	9	0	0	1

(理由)

「大変よかった」

- ・流れがよく、適度な？座席空間をカフェ形式で話しやすく、発言もしやすかった。
- ・翌日、訪問先の家族に「ほしい社会資源」を質問してみて、一步踏み込んだ領域と振り返りに繋がります。
- ・スタート時は初対面同士が多く緊張していたようでしたが、アイスブレイクで雰囲気や和んだ気がします。
- ・気楽な雰囲気や話ができました。ありがとうございました。
- ・職種の違いの考え方を聞け、参考になりました。
- ・名刺交換の機会を頂き、何かの折、相談しやすくなります。
- ・アイスブレイク時、簡単な自己紹介があっても良かったと思います。
- ・職場以外の専門職の方たちとざっくばらんにはなせて気分転換になりました。

「よかった」

- ・他の専門職の方とつながりができて良かった。
- ・いろいろな意見が聞けて参考になった。
- ・地域の他職種の方々と情報交換やそれぞれの地域の実情を教えていただくことができて大変有意義だった。
- ・堅苦しくなく意見交換できた。
- ・顔見知りの方とも初めましての方とも、たくさん意見を聞くことが出来ました。所属やグループの組合せで、こんなにたくさんの考えが出てくるというのが、とても楽しかったです。
- ・普段電話でやり取りをさせて頂いている事業所の方で、実際にお会いしたことがない方と交流できたので良かったです。
- ・顔が見えるコミュニケーションの機会を設けて頂き、知っている人も、そうでない人も今後の連携が取りやすくなり、地域としての働きも良くなると思う。
- ・他者理解をすることができた。グループワークでの自分の意見の発言を、今後の研修などで生かすことを学ぶことが出来ました。
- ・様々な業態の方がいる中で、普段知りえることがない情報や多様な視点を感じ取れた。ありがとうございました。

「回答なし」

- ・アイスブレイク、とても良かったです。リラックスできました。ただ全体時間が短い中で、ちょっと時間をかけすぎたかな…と感じました。
- ・実現可能性や採算とかを全く考慮しないで「おもしろそうなこと」を思いつく力は大切だと思いますが、思いつきを思いつきで終わらせない構成力や突破力もすごく大切だと思っていて、そちらの方に興味があります。

- ・「何が何でも無くっちゃ困る」サービスを考えるべきではないだろうか。「あったらいいな」と言いながら、実は「現実無くて困っている」ことを思い浮かべていると思います。

3. 事例提供の協力・希望

- ・栗橋ナーシングホーム翔裕園
- ・鶴寿荘居宅介護支援事業所

4. 今後の企画への要望

- ・新しいサービス開発のアイデアを出すよりも、「現実の業務の中で、こんな柔軟な対応をしているよ」とかいう事例を競い合っただけではいかがでしょうか？「現状の枠組みの中でもこんなことが出来るんだ！」という事例を共有して「うちもやってみよう」と広がっていくのを期待して。
- ・限られた条件の中で、研修会を継続するのは色々と難しい点もあると思いますが、埼葛北・北埼玉エリアでの認知度はどうなんでしょうか？個人的には有意義な時間でしたので、更により良い研修になればと思い、公民館に案内を置いたり、SNSなども活用し発信すると交流の場になるのかなと感じました。
- ・社会資源については、今後も情報が欲しいです。
- ・困っていること、良かった事例など、色々なテーマで交流が深められると、日常のモチベーションや共有ができて、業務に活かせるきっかけになるとと思います。
- ・対応困難事例など。
- ・事例検討は今まで参加したことがないので、参加してみたいです。
- ・まずは2~3カ月に1回程度の頻度で定例会を開催して顔なじみの関係を深め、議論をしやすいすることで、専門職の交流という目的を越えて、この地域における具体的な連携方法を構築できれば良いと思います。
- ・専門職の集団として、顔なじみの関係を深める。情報のオープン化が出来るとう良いと思います。皆が良くなる様に。
- ・スーパービジョンについて、ファシリテーションの方法と、スーパーバイザーの立場理解。
- ・福祉職、介護職、リハ等の専門職がいる中での、職場内での専門性を高める機会をどうしているのか知りたかったりします。職場内研修や職場外研修の機会をどう確保されているのか。当方では上手く行えていないこともあり…。